



7月6日、国崎町で新しい朝市が始まりました。

主催の「国崎朝市実行委員会」は、朝市を通じて、国崎を訪れたかたに、地域で作っている商品などをPRできる環境を整備し、また高齢者のかたが作っている野菜を売る場所を作ること、地域おこしができればとの思いから朝市を始めたそうです。

国崎の朝市は、毎月第1・3日曜日の午前9時～12時に開催しています。ぜひのぞいてみてください。

鳥羽に新しい朝市が誕生



山口県萩市在住で神島町出身の萩焼作家・小久保凌雲さんより、萩焼作品「海への祈り」が市へ寄贈されることとなり、7月3日、遠方で暮らす小久保さんを代理して、同郷で親交のある船津町在住の藤原長治さんより木田市長に作品が手渡されました。小久保さんからは昨年5月にも神島町の潮騒公園完成を記念して萩焼作品「愛のあいさつ・初江と新治」を寄贈していただいております。今回で2作品目の寄贈となります。

萩焼作品「海への祈り」を寄贈



7月19日、ドルフィン公園で「ナットバフェスタ」が開催されました。

会場では、海女着姿の県立鳥羽高等学校の生徒らによるところてんの振る舞いや、魚のつかみ取りが行われました。また、同時開催として鳥羽マルシェのプレオープンイベント「いただきマルシェ」も行われ、あいにくの雨でしたが、多くのかたで賑わっていました。

「いただきマルシェ」は、8月17日(日)までの土曜・日曜日に鳥羽マリンターミナルで開催されます。

ナットバ（夏の鳥羽）が始まる



市立図書館で7月22日、開館25周年特別行事としてとば子育て応援キャラクター「ジュジュ」ととばーがキャラクター「トーバ」「トパティ」をつくるおりがみ教室が行われ、市内の小学1年～4年生16人が参加しました。参加した子どもたちは、図書館の職員に教えてもらいながら、楽しそうにキャラクターを折りあげていきました。

この折り紙を考案した市立図書館職員の木下佳奈さんは「トーバとトパティは、おばけのおりがみをヒントに作りしました」と話してくれました。

鳥羽のキャラクターをおりがみでつくる